萌えっ娘もんすたぁ

SHEIK

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
萌えっ娘もんすたぁ

【Ｎコード】
Ｎ７９０９Ｅ

【作者名】
ＳＨＥＩＫ

【あらすじ】
この世界には萌えもんという生き物がいるその萌えもんといっしょに冒険するものを萌えもんトレーナーというこれは一人の萌えもんトレーナーになりつつある青年の物語えーと萌えもんのゲームをやっていたのでちょこっとアレンジして小説にしてみました殿堂入りしましたｗｗｗうれしいですｗｗｗｗｗｗｗｗｗ

第一話　「出会い」（前書き）

これはポケモンとはまったく無関係です
しかし萌え要素をふくんでいるので注意してお読みください
ちなみに初投稿です。
行とかめちゃくちゃでよみにくいかもですが
それでもいい方は読んでください

第一話　「出会い」

この世界には、萌えっ娘もんすたぁ。略して萌えもんという生き物が存在する。
萌えもんは賢い生き物であり人間の言葉もちゃんと理解できる。
その萌えもんとともに、世界を冒険する人たち、それを萌えもんトレーナーという。
萌えもんトレーナーにも色々あり、
自分で育てた萌えもんを野生や他の萌えもんトレーナーと戦わせたり、
自分の家のお手伝いさんとしていっしょに暮らしたり、
ときにはその萌えもんと結婚する、という人もいる（ちゃんと法律でみとめられている）
これはそのトレーナー（になりつつある）一人の青年の物語である・・・・

マサラタウン某家　ＡＭ８：００
リョウマ「ふぁ～、眠い・・・・・・・・・・・・・・今日も元気に、・・・・・・・・・・・・・・自宅警備するか」　（ガバッ！）　（ＺＺＺＺＺ・・・・）
このおきてすぐ寝ている（自身は自宅警備といいはる）青年（１８歳）
名前はリョウマ、なぜ１８歳の青年が朝から寝て・・・自宅警備しているかというと、
まぁ・・・やりたいことがないかららしい。

通常この世界では１５歳をすぎると大人とみとめられ、トレーナーになり、
萌えもんをつれて旅にでる。
だがこのリョウマは
リョウマ「まぁ絶対ってわけでもないし、いかなくていいんじゃね？」
ってなかんじである・・・・・
そんなリョウマに母はあきれていままで放置状態だったが、今日はそうでもないらしい。
（とんとんとん）　　（ガチャッ）
母「リョウマ・・・」
リョウマ「む、どうした母？」
母「今日からトレーナーになれ」
リョウマ「なぜだｗｗｗｗｗ」
母「おまえももう１８だ・・・そろそろいいころかと思ってな」
リョウマ「むぅ・・・嫌といったら？」
母「ほう・・・？我にさからうというのかね・・・・？」
（このリョウマの母はなんというか闇の組織みたいな物の支配者らしい
しかも本人も格闘家でカイリキー（萌えもん）とタイマンで余裕で勝てるらしい）
（ちなみに萌えもんは人間と同じサイズではあるが５倍くらいの強さはあるらしい）
リョウマ「いえ・・・・・とんでもございません・・・・」
母「ならば良い」
リョウマ「でもどうすれば？」
母「この町にオーキドという博士がいるのをしっているか？」
リョウマ「うん・・まぁ有名だし」
（ちなみにこのオーキド博士というのは萌えもんを研究している博士であり

色々と賞をもらったりしている。後、トレーナーとしての腕も相当で萌えもんリーグ
という、世界中から萌えもんトレーナーが集まる大会で優勝もしている）
母「まぁその博士とは前から話していてな・・・・
おまえに萌えもんをゆずってはくれないかと少し前に頼んだのだ」
母「それで今日ゆずってくれるというので、萌えもんをもらって旅にでろ」
リョウマ（うーん、まぁこのごろ暇だったし、そろそろニー・・じゃなかった
自宅警備も無茶があるか・・・・・・・・・・良し！）
リョウマ「わかった、しかしどこにいけば？」
母「この町の南に大きな建物があるのはしっているな？
そこだ、そこで待ってくれている」
リョウマ「わかった、じゃあいってくる」
母「うむ、がんばってこいよ」
（ガチャッ）

マサラタウン　オーキド研究所
（がちゃり）
リョウマ「こんにちは～」
オーキド「おお、きみがリョウマ君か、きみの母から話はきいているよ」
リョウマ「はぁ・・・・」
オーキド「で、さっそくだがここに3人の萌えもんがいる、このなかから一匹だけえらんでみてくれ！」
リョウマ「はい」
リョウマ（どうしようかな・・・・）
（がちゃり）

のりあき「おーっす、じいちゃん！、話ってなんだ？」
オーキド「おお、のりあき、来たか、
いや今日はとなりのリョウマ君が旅にでるというのでな、
おまえももういいころだと思ったから萌えもんをわたそうと思って
呼んだのだ、
とりあえずリョウマが選んだ後でえらんでくれ」
のりあき「りょ～か～い、リョウマ！はやく選べよなー」
リョウマ（う～ん迷う、みんなかわいいなぁ～～）
ヒトカゲ（じ～～～）
リョウマ「ん？」
（ドキリ）
リョウマ（なんだ？・・・・この感覚・・・これが・・・・・・一目
惚れって
やつなのか！）
リョウマ「博士、決めました！。俺、ヒトカゲにします！」
オーキド「ほほぅそうか！この娘はなかなか育てやすいぞ！
それはいいが・・・ニックネームはつけないのか？」
リョウマ「あっそういえば・・・・」
リョウマ（うっわ～一番まよう・・・・・・・・）

リョウマはこの後2時間、ニックネームをどんな名前にするか
迷い続けるのであった・・・・・・・・・

萌えっ娘もんすたぁ　第一話　「出会い」
終

第一話　「出会い」（後書き）

えー最後まで読んでもらいありがとうございます
ストーリーは・・まぁ萌えもんのゲームやってて
自分のを小説にしようかな・・と思いまして・・・・
やってしまいましたｗｗｗ
ほんと・・完全初心者で・・・
行のわけかたもわからんし
なんか展開はやいし・・・でめちゃくちゃです・・・
けどつづけていこうとおもっていますので
なま暖かい目で見守ってやってください
批判とかもばんばんしていいです
アドバイスもよかったらおねがいします
それでは新作もいつになるかわかりませんが・・・・
またこんど・・よい萌えを・・・・

萌えっ娘もんすたぁ第二話　「ライバル」（前書き）

えーと第二話です

まだマサラタウンからでてませんｗｗｗｗｗ

ほんとｇｄｇｄですいません

萌えっ娘もんすたぁ第二話　「ライバル」

オーキドにヒトカゲをもらって3時間・・・・
リョウマはいまだにニックネームをどうするか悩んでいた・・・・

「う～んどうしよう、まじでうかばねぇ～・・・ヒトカゲはなにかつけてほしい
名前とかある？」
「いえ・・・・とりあえずマスターにおまかせします・・・」
「そうか・・・じゃあ旅をしながら考えるか・・・・・・・・・・
よーし出発するかぁー！」
「ちょっと待てよリョウマ」
「ん、どうしたのりあき」
「両方萌えもんをもらったことだし・・・・ためしにバトルしないか？」
「あぁ・・・別にいいけど」
「よっしゃあ！じゃあさっそく・・・スタートだっ！」

戦闘開始！
「ヒトカゲ！泣き声だ！」
「へっ！こっちの攻撃を下げる作戦か・・・だが！泣き声だけじゃ勝てないぜ！
ゼニガメっ！たいあたりっ！」
「えいっ！」
ドガッ！
「ヒトカゲ！もういちど泣き声！」
「あくまで下げるつもりか・・・なら遠慮なくっ・・・
ゼニガメったいあたりだ！」

以下ヒトカゲ泣き声
←
ゼニガメたいあたりを5回ほどくりかえす
「へへっどうしたリョウマ、ヒトカゲの体力がもう尽き掛けてるぜ！」
リョウマはきずぐすりをつかった！
ヒトカゲの体力は全快した！
「ちょっっっっっと待てえええええ！！」
「ん、どうしたのりあき」
「なんでおまえきずぐすりとかもってるんだ！」
「いや、家でるまえにＰＣの中にあったからいるかとおもって・・・・・」
「ありがとうございます、マスター」
「よしっ体力も回復した所で・・・反撃開始だっ！
ヒトカゲっ！ひっかくだ！」
「はいっ！」
ガッ！
「あっ！・・・痛い・・・・」
「あぁっ！大丈夫かゼニガメ！？くっこっちにはきずぐすりがない・・
急所狙いで・・・ゼニガメっ！たいあたり！」
ドカッ！
「ふふふ・・・限界ちかくまで下げたからな・・・急所でもたかがしれてるな・・
よし！ヒトカゲ！とどめのひっかく！」
「やぁっ！」
ヒトカゲの速さと力をいれた一撃！
ゼニガメは前のひっかくがきいていて思うようにうごけていない！

ガッ！！！
改心の一撃！
ゼニガメは目を回して気絶してしまった
「ぜっ！ゼニガメ！大丈夫か！？・・・・・よかった・・・・気絶してるだけか・・・・・・
おい！リョウマ！今回は負けちまったが・・・こんどやるときはおれが勝ってみせるからな」
「あぁ、けどおれも負けないぜ」
「じゃあじいちゃん！おれはもういくぜ！リョウマ、またあおうぜ！」
「博士・・・じゃあおれも・・・」
「あぁ！待て二人とも！あるものをわたし忘れていた！」
二人「なんだ？」
「この萌えもんを保護するボールと・・・萌えもん図鑑だ！」
二人「萌えもん図鑑？」
「ふふふ・・これは萌えもんを保護すると自動的にデータが書き込まれるという
ハイテク図鑑じゃ！二人にはこれに全ての萌えもんのデータをのこしてほしい！」
「へーおもしろそうですね・・・とりあえずがんばってみますよ」
「よっしゃあ！萌えもんリーグを制覇するついでにそれも全部やってやるぜ」
オーキドは二人に萌えもん図鑑をわたした
「二人ともがんばってくれ！」
「あぁ！こんどこそいってくるぜじいちゃん！リョウマもじゃあな！」
「博士、おれもいってきます」
のりあきは走り出し、リョウマはゆっくりと歩いて出て行った
（ふふ・・・がんばれよ・・・ふたりとも・・・）
それぞれの速さで歩み始めた二人をオーキドは見送っていった・・・

・

そして１０分後マサラタウン北　一番道路手前

「あぁー！やっぱりニックネームは先につけておきたい！・・・けど・・・・けど・・・・・・・おもいつかねえええええええええええ

ええ」

「マ、マスター・・・・・・・」

この後リョウマはニックネームをどんな名前にするかを一番道路手前で

また１時間ほど考えることになった・・・・

萌えっ娘もんすたぁ第二話「ライバル」

終

萌えっ娘もんすたぁ第二話　「ライバル」（後書き）

最後まで読んでもらってありがとうございます
とりあえずこれからもこんな調子でやっていこうかと
思っていますのでそこまで無理に読んでただかなくてもいいですｗ
いやほんとにｗｗｗ
次のＵＰがいつになるかは未定です
それではよい萌えを・・・

萌えっ娘もんすたぁ第三話「旅立ち」（前書き）

はい第三話です
まぁきがるにサラりとよんでやってください

萌えっ娘もんすたぁ第三話「旅立ち」

オーキドからヒトカゲをもらったあとリョウマは
一番道路手前で3時間、ヒトカゲのニックネームを考えていた・・・

「う～ん・・・・・・そうだ！リズっていうのはどうだ？」
「リズですか・・・なにか由来とかあるんですか？
「いや、ないおもいついただけ」
「そうですか・・・けどマスターがつけてくれた名前ならなんでもいいです」
「そうか！じゃあきまりだ！君の名前はリズだ！」
すると後ろのほうから歩いてくる音が聞こえてきた・・・・
「リョウマよ・・・・」
「うお！？母！？どうしたんだいったい？」
「いや。出発する前に頼みたいことが・・・ん？そのヒトカゲはオーキドにもらったのか」
リズはリョウマの後ろにかくれている。けっこう人見知りのようだ
「あぁヒトカゲのリズだ。ほらリズ、おれの母だ」
「は・・初めまして・・・」
「はじめましてリズちゃん、私はリョウマの母だ、まぁこんなやつだが・・・・・・
よろしく頼むぞ」
「おいおいそりゃないぜ母、そういえば・・頼みってなんだ？」
「む、そうだったな・・・・まぁあの家で一人で暮らすのもなんだ・・・できれば萌えもん
を一人家においておきたいと思ってな」
「で、おれに保護してこいと？」
「そうだ、まぁできれば手伝いとかができる萌えもんがいいな・・

ちなみに
性別はどちらでもけっこうだ」
「ふむ、いつになるかはわからんが覚えておくぜ」
「よし、たのんだぞ・・まぁそれだけだからがんばっていってこい」
「おういってくるぜ、たまには帰ってくるからな」
そういうとリョウマは一番道路にむかって歩き始めた
（がんばってこいよ・・・）

そして一番道路道中
「マスター」
「ん、どうしたリズ？」
「あの・・・マスターのおかあさんってどんな人なんですか？」
「なんで？」
「いや・・なんというか恐ろしいプレッシャーみたいなのを感じたので・・」
「うん・・・なんていうか・・・まぁ普通の人ではないな・・・・・なんか
カイリキーとタイマンで勝ったことあるとかいってたな・・・・」
「そ・・それはすごいですね・・・」
「まぁ恐ろしく強いということをのぞけば普通の母だ、安心していいぞリズ」
「はい、マスター」
そしてまた歩き始めた・・・
しばらく歩いていると萌えもんが草むらから飛び出してきた！
「おぉ！野生の萌えもんか！さっそく保護といくか」
その萌えもんはポッポだった
「よしいけ！リズ！」
「はいっ！」
リズはポッポをひっかいた！

「あ痛っ」
すこし弱ったようだ
「いけるか・・・？よし！萌えもんボールだ！」
リョウマは保護用の萌えもんボールを投げた
投げたボールは放物線を描いてきれいにポッポにあたった
するとボールはパカリと開き赤い閃光がポッポを覆った
赤い光に覆われたポッポはそのままボールの中に入っていった
少しボールがうごいていたようだが2，3秒たつとうごかなくなった
「よっしゃぁ！保護成功！」
「やりましたね、マスター！」
「あぁリズのおかげだよくやったなリズ！」
「いえ、そんなことは・・・（／／／）」
「あ、あの～・・・」
「ん？あぁそうだった初保護ということでわすれていたぜ」
「えーとポッポです保護されたからにはお役にたてるようにします」
「おぅよろしくな！ポッポ！・・・さて少しリズとポッポのレベルを上げようか・・」
二人「はい！」
そのあと一時間・・・リョウマは道を進みつつ二人のレベルをあげていった
そしてトキワシティ入り口付近
「ふ～けっこうあがったな・・・少しつかれたし・・トキワシティにいくか
そろそろ・・」
「そうですね・・ほんとにつかれました・・・・」
「はぁ～けどけっこうレベルあがったよね」
リズＬＶ１２
ポッポＬＶ９
「ここで１２ＬＶはやりすぎかもしれん・・・まぁポッポはたいあたりだけじゃ

すこしきついからかぜおこしくらいはおぼえさせたかったしな・・・・

さてトシワシティの萌えもんセンターにいくとするか・・・・」

リョウマたちはトキワシティにはいった、すると・・・・

砂嵐がふいていた

「なんですかここぉ？！」

「あ、そっかリズはマサラから出たことないから知らなかったな」

「わたしは知ってましたけどね・・・」

トキワシティは気候が特殊でいつきても砂嵐がふいているのである

「あ、あう～砂が目に・・・」

「大丈夫かリズ？一度ボールに入っておけ、二人とも」

「すいませんマスター・・」

「気にするな」

リョウマが二人にボールをむけるとボールから赤い光が出て

リズとポッポを覆ったそしてボールの中にはいっていった

「さて・・・いくか」

トキワシティ萌えもんセンター

「回復おねがいしまーす」

「はい、おあずかりします」

テンテンテンテレテン♪

「はい！おあずかりした萌えもんはみんな元気になりましたよ！

またのご利用をお待ちしております！」

「ありがとうございまーす」

「ふぅ・・ほんとにつかれた休憩するか・・・」

「そういえばこれからどうするんですか？」

「う～んそうだなとりあえずニビシティにいこうと思う」

「ニビシティ？」

「うん、あそこには萌えもんジムがあるから挑戦しようかと思って

る・・・・
そのためにはもうちょいＬＶあげたいなぁ・・・」
「そういえばこのトキワの西の道路にも草むらがあるよ・・・一番道路とはちがう
萌えもんがいるよ」
「そうか・・・すこし休んだらいくとするか・・・・・」
とりあえずＬＶ上げもしたいし保護もしたいからいってみるか・・・
と思うリョウマであった・・・・

萌えっ娘もんすたぁ第三話「旅立ち」
終

萌えっ娘もんすたぁ第三話「旅立ち」（後書き）

はいありがとうございました
なんか小説なのに会話ばっかりですな・・・・
まぁこれから改善しますのでおおめにいてくれたらうれしいです
ではこのへんで・・よい萌えを・・・

四話「進化」（前書き）

えーと、ＵＰしてみました
サラりと読んでやってｗｗｗ

四話「進化」

リョウマ達がマサラから出発して半日がたった・・・・
そろそろ日が暮れる時間である

２２番道路草むら
「うん、けっこう萌えもんも保護したしリズ達のＬＶもあがったな」
リズＬＶ１５
ポッポＬＶ１３
カツ（ニドラン♂）ＬＶ１３
「ほんとにけっこう上がったなー」
このカツ（ニドラン♂）はリョウマたちがＬＶ上げをしているときに出てきたのだが
普通、萌えもんはたいてい♀が多いのである、なのでリョウマが
「おぉ♂かーめずらしいしメンバーにいれておきたいな・・・」
という理由でつかまえたのである
「あの・・マスター」
「ん、どうしたポッポ？」
「なぜリズやカツにはＮＮ（ニックネーム）がついているのに
私にはつけてくださらないのですか・・・？」
「う、あ～それは・・・・」
「やっぱり私があまり特徴がないからですか・・・？」
少しばかり泣きそうになっている
「いやいやいや！そんなことないって！えーと・・その・・・そうだ！
ポッポにはデフォルトのままが一番似合うからわざわざＮＮをつける事もないかな～
と思ったからだよ！だから気にするなって！」
「そうなんですか！わかりました！すいませんマスター変な質問し

ちゃって」
（な、なんとか誤魔化せたか・・・）
実は理由はポッポの言ったとおりだったりする
「ま、まぁLVもけっこうあがったことだしそろそろトキワに帰ってMC（萌えもんセンター
で休むとするか！」
二人「はい！」
カツ「おう！」
帰ろうとすると西のほうから歩く足音が聞こえてきた
「ん？」
「よぉリョウマ！」
のりあきだった
「なんだのりあきか・・・」
「なんだってなんだよｗｗｗ」
「いやべつに・・・・・まぁおれトキワもどるから・・・じゃあな」
「おいおいおいおいおい、まぁ待てって」
「なんだよ・・・もうMCかえって休みたいんですけど・・・」
「まぁその前に一回だけバトルしないか？」
「えぇ～～～」
「なげぇよ！どんだけ嫌なんだ！、頼むからさ一回だけ！」
「嫌だと言ったら？」
「お願いします一回だけバトルしてください」
なんと土下座しはじめた
（こいつ・・・プライドないのか）
リョウマはため息をつくと
「しょうがないな・・・一回だけだぞ」
「よっしゃあ！そうときまればバトル開始だ！」

のりあきはポッポをくりだした！
（ポッポか・・・なら！）
「いけ！リズ！」
「リズ！ひのこだ！」
リズの口から小さい火がでた
ポッポにあたった！
ポッポはたおれてしまった
どうやろ一撃で倒せたようだ
「ちょ！まじかｗｗｗｗ」
「どうしたもう終わりか？」
「んなわけないだろ！・・・いけ！カメール！」
カメールＬＶ１６
「おまえ・・・二人しかいないのに一人だけ１６って・・・・」
ちなみにポッポはＬＶ９だった
「うるせえ！パートナーだからな！強くなってもしかたねえだろ！」
「はいはい・・・リズ！ひっかくだ！」
リズはカメールにむかってジャンプしそのままひっかいた
「へへっカメールは硬さが売りだぜ！カメール！たいあたり！」
カメールはリズにつっこんだ
しかしリズは横に飛びのいてかわした
「リズ！もういちどひっかく！」
さっきとはちがい力がはいっている
ガッ！
改心の一撃！
カメールの体力がかなりさがった
「くそっカメール！みずでっぽうだ」
「はいっ」
カメールの口から勢いよく水がだされた！
バシャア！
リズにあたった！効果は抜群だ！しかもカメールの特性、激流で水

タイプの技の
威力があがっている！
「う・・・・まだまだぁ！」
なんとかひんしはまぬがれたようだ
「う・・・まずいな・・ひっかくでは微妙だ・・・」
「マスター！」
「む・・・そうだな・・よしひのこだ！」
「ははっ馬鹿めリョウマ！火が水にきくわけないだろ！」
リズの口から火が出た！
しかし先ほどポッポをたおしたひのことは段違いの勢いだ！
「な、なにいいいいい」
「馬鹿はおまえだ、おまえのカメールが激流ならおれのリズは猛火
だ体力がへってるから
火の威力があがってるんだよぉぉ！」
「いっけぇぇぇぇ！！」
炎がカメールを襲う
効果は今ひとつ・・だが体力もさがっていた、しかもひのこの威力
もあがっていた
「う・・・・・」
カメールはたっていた
「そんな・・・・」
リズは負けを覚悟した
「さすがカメール！おれたちの勝ちだ！カメール！みずでっぽ・・・
カメール？」
カメールは気をうしなっていた
気力で立ってはいたが体力が限界だったようだ
「カ、カメール！大丈夫か？・・・・・よかった気をうしなってい
るだけか・・・・・
リョウマ！こんどはおれが勝つからな！」
そういうとのりあきは走ってトキワに行った

「あいつ・・・マサラんときと同じことといってるな・・・・」
「そうですね・・・・ん？」
リズの様子がおかしい体が光っている
「な、なんだ？どうした？リズ！」
リズはヒトカゲからリザードに進化した！
「お、おぉ！？こ、これが進化ってやつか・・・しかし・・・・」
「な、なんでしょうかマスター？」
「いや、綺麗になったなーと」
「そ、そうですか？（／／／）」
「あぁなったと思うぜ、う～んそろそろつかれたしトキワにもどるか～」
二人「はい！」
カツ「おう！」
そしてこの後リョウマたちはトキワのＭＣにもどってリズ達を回復させた後
もう暗くなったのでＭＣに泊まった
リョウマは
「とりあえず明日はニビシティめざしてみるか・・・」
とか思っていたりするのであった・・・・

萌えっ娘もんすたぁ第四話「進化」
終

四話「進化」（後書き）

はいすいませんもうあやまりますはい
みじかいし文おかしいし展開はやいし
もう土下座もします
次の話は気合をいれてみます・・・
ではよい萌えを・・・・

五話「ゆとり潰しのはずだった」（前書き）

えーとその名のとおりトキワの森のみです
手抜きです
すいません

五話「ゆとり潰しのはずだった」

前回、のりあきとバトルして勝利したリョウマたちはＭＣで休んでいた・・
そしてその次の日・・・

トキワ、２番道路手前
「さてと・・・いくか・・・次はトキワの森だな・・・」
「な、なんかテンション低いですねマスター？」
「ん、あぁあまりここは評判よくないからなぁ・・トキワの森・・・」
「そ、そうなんですか？」
なぜかカツがでてきた
「おれも前ここにはいってみたけど3時間ぐらいさまよったあげく結局
トキワにもどったんだよな・・・」
「やっぱそうなのか・・・さすがゆとり潰・・・・いや、なんでもない」
「ま、まぁこっちには火と飛行がいることですし多分大丈夫ですよ！」
「・・・・だといいけど」
リョウマ達はトキワの森にむかっていった

トキワの森　入り口
「はぁ～～～憂鬱だなおい」
「ま、まぁいってみましょうよマスター」
「・・・・・・・・・」
「あ、あれ？マスター？」

「いや、そのマスターってのはなぁ・・・なんか身長がたいしてかわらない
のにマスターってのはちょっとなぁリズ、できれば名前で呼び捨てでよんでくれ」
「えぇ!?な、名前で・・・しかも呼び捨てですか!?そ、それは・・ちょっと・・」
顔が真っ赤になっている
「?どうしたんだリズ」
(うっわーべた惚れだね)
(そうだな・・しかしリョウマはなんできづかないんだろうな
なんかリズも不憫だねぇ)
なにかポッポとカツがささやきあっていたようなきもしたが
リョウマはとりあえずスルーした
「まぁいくかぁ〜〜」
「は、はいマス・・・リョウマ・・・」(///)
トキワの森にはいっていった
「うぉ!さっそく分かれ道かよ・・・三択か・・・う〜〜んリズ、えらんでくれないか?」
「え、わたしがですか?けどいいんですか?」
「うんまぁどこいっても文句は言わないよ」
「じゃ、じゃあまっすぐで・・・」
「よし!いくか!」
リョウマ達が進もうとしたそのときだった
ガササッ
横の草むらから何かが飛び出してきた
「な、なんだ!?」
「この萌えもんは・・ピカチュウですね」
ピカチュウ、トキワの森にはいるがあまり出てこない
ここらへんではめずらしい電気タイプの萌えもん
「へー・・・保護したいな・・・いけぇぇぇぇ萌えもんボール!」

（全員）「はやっ！！！」
リョウマのなげたボールは勢いよくピカチュウにむかっていった
あたった
ピカチュウはリョウマ達に気づいていなかったのでボールもわかる
わけが無かった
そして・・・・保護成功！
「よっしゃあああああああああああああああああ！でておいで
ピカチュウ」
「え、ちょ何？これ私捕まったの？え？」
ほんとにあわてている、なにがおこったか把握できていないようだ
するとカツが
「あわてるな説明してやる」

少年説明中・・・・・
「は、はぁ・・・・わかりました
まぁ保護されたからにはついていきます」
「よしっ！よろしくピカチュウ・・・ではあらためてニビシティに
いこうか」
「あ・・・それなら任せてください」
「え？ピカチュウ？」
「この森とニビシティはもう５０回以上行き来してますので・・・」
「な・・なんで？・・・」
「いや・・・その・・・・いたずら？」
「ちょｗｗｗｗ」
「ま、まぁ気にしないでください・・・いきましょう！」

少女案内中・・・・
１０分後トキワの森出口
「うわーなんの苦もなくでれたよ・・・・」

「まかせてくださいって言ったでしょう？」
「は・・・はいありがとなピカチュウ・・・てわけでニビシティのＭＣいくか」

ニビシティ萌えもんセンター
「ふーまぁ・・・草むらあるし保護しにいく＋ＬＶ上げで」
（全員）「うーい」
「な・・・なんかやる気ないな・・・まぁいいや」

ニビシティ草むら
「さーてやるかー」
１０分後・・・
「けっこうＬＶあがったし保護もしたな」
リズ２０ＬＶ
ポッポ１５ＬＶ
カツ（ニドリーノ）１６ＬＶ
ピカチュウ１７ＬＶ
保護結果
ピッピ
ニャース
ズバット
「いいころかもな・・・よし！ニビジムに挑戦するか！」
（全員）「はい！（おう！」

ニビジム
「なんで砂嵐があるかはしらんが・・・タケシ！バトルしろ！」
「ふっいいだろう、だれの挑戦でも受けよう！」
「バトル開始だ！」

しばらくお待ちください・・・・・・（てんてんてれてん♪
「ひ、ひでぇえええなんだあの手持ち！」
タケシ手持ち
サイホーン１６ＬＶ
イワーク１７ＬＶ
イシツブテ１６ＬＶ
カブト１５ＬＶ
オムナイト１５ＬＶ
プテラ１７ＬＶだった・・・・
リョウマたちは一番手のサイホーンは倒せたが、次にでてきたプテラにやられたのである
「まさかプテラとは・・・・」
「あの攻撃力であの速さはひどいです・・・」
「無理だろ・・・」
かなり落ち込んでいる
（うーんなんか対策かんがえないとなー）
タケシへの対策はみつかるのだろうか
リョウマはピッピがもっていたなんとなく綺麗な石をみながら考えていた

第五話「ゆとり潰しのはずだった」
終

五話「ゆとり潰しのはずだった」（後書き）

はい手抜きでしたー
もうマジで６話は気合いれます
ニドキ・・・フラグたちましたねｗｗｗ
あ、あと鬼畜殿堂入りしたよー
ちょーうれしい
それでは次はがんばります！
よい萌えを！

第６話「自重しないカツ」（前書き）

おそくなってすみません！
よんでくだされば幸いです・・・・orz

第6話「自重しないカツ」

タケシのプテラに無双されて1週間・・・・
リョウマたちはジムに二度目の挑戦に来ていた・・・

「ん・・・？おまえは前に来たやつか」
「あぁ、リベンジにきたぜ」
「ほう・・・負けとわかっていて挑むか・・・トレーナーの性だな・・・
かかってこい！」
「よし！いくぞカツ！」
「おっしゃ！任せろ！」

戦闘開始
タケシはサイホーン、リョウマはカツ（ニドキング）をくりだした！
サイホーン17LV
カツ30LV

「カツ！にどげり！」
カツはサイホーンにむかって蹴りをくりだした！
ドカッ
ドカッ
二回あたった！
効果は抜群だ！
サイホーンは倒れた
「なっ！？一撃！？だが偶然は続かん！」
プテラをくりだしてきた
「カツ！もう一度にどげり！」
ドカッ×2

改心の一撃！×２
プテラは倒れた！
「な、なにぃぃぃぃぃぃぃ！？」
「やった！プテラを倒した！」
以下イシツブテ、イワーク、カブト、オムナイトをすべて
にどげりだけで倒す
「ぐっ理不尽な・・・まぁ負けは負けだバッヂをうけとれ！」
「ありがとさん、またくるぜ・・・・多分」
「二度と来るな」
ニビシティ萌えもんセンター
「いやぁやっちまったな・・・・
まさか６タテできるとは思っていなかったからな・・・・他もＬＶは
万全だったんだが」
リズ（リザード）ＬＶ２６
ピジョンＬＶ２４
ピカチュウＬＶ２６
なぜこうもＬＶがあがりカツがニドキングになっているかというと
トキワの森でＬＶ上げをしているとリョウマが石を落としてしまって
それを拾おうとしたカツが進化したのである
それでにどげりも覚えており攻撃も高いカツを主力にいってみよう
ということで
カツは３０ＬＶにしかもほかの面子も平均２５くらいにしたのである
「まぁジム戦も勝ったし少し休もう」

３時間後・・・
「うん、けっこうやすめたな・・・・さて、いくか！」
（全員）「はい！」（おう！
「保護用ボール、傷薬、まひ、どく直し、あなぬけ・・・・と・・・
よし！」
ニビシティ出口

「ん？あれは確か・・・・オーキドの博士んとこの」
「おぉ！リョウマ君まだここにいたんですね！
渡したい物があってきたんですよ！・・・・・はい！これです」
靴だった
「これは？」
「ランニングシューズです！いつもより早く走れます！
いそがしいので、では！」
「なんかあわただしいな・・・ん？」
一枚手紙があった
（がんばれよ、母）
「母らしいな・・・・いきますか」
リョウマ達はおつきみ山にむけて歩いていった・・・

第６話「自重しないカツ」
終

第6話「自重しないカツ」（後書き）

ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いごめんなさいごめんなさいごめんなさいめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごごめんなさいごめんなさ
いごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いごめんなさいめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごごめんなさ
いごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いごめんなさいごめんなさいめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いごめんなさいごめんなさいごめんなさいめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさ
いめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさい本当にあきたわけではないんですが・・・

ネタがうかばないというか・・・・・
しかも内容うすい・・・・
こんどは！なるべく早く！濃く！書きます
これでもあきれないかたは見てください！

すみませんでした！

おれはもう☆（前書き）

寒中水泳してきます

おれはもう☆

a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a a

a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
a a a a a a a a a a
  a a a a a a a a a
  a a a a a a a a a
  a a a a a a a a a
  a a a a a a a a a
  a a a a a a a a a

おれはもう☆（後書き）

どうもお久しぶりです、もしくは初めましてでしょうか、この作品は私はごみくずで糞の馬鹿なので打ち切りとなりました
楽しみにしてた人などいないでしょうが、これを見て不快と感じた人もいるでしょうからこの場をかりて土下座します、すいませんでした！
けどちょくちょく短編は書くとおもうのでどうでもいい時にでものぞいてくれれば幸いです
人に迷惑かけてばっかりでしたね
見てくれた人ありがとう！
そしてごめんなさい

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7909e/

萌えっ娘もんすたぁ

2010年10月10日07時48分発行